都屋徳武佐

阿波根　直孝（1897・M30）字都屋（01：16）

都屋 徳 武佐んでぃしぇー、今帰仁 城 、今帰仁親 方 んりがらーぬ子 孫 やみしぇーたんでぃ。あんさーなかい、うぬばーに、命 失 いるばーに、此処んかいめんそーち、 夫 婦 とぅ子ぬ 達 とぅ来っ。あんし其処をぅてぃ凌じ命ぇ助かてぃ。

「あーなー命ん助かてぃやー、此処ぁ都屋 徳武佐んでぃち付きりやー」んでぃ、 徳 ぬいぎたーが有ぐとぅ、何時ぐ何時までぃん此処んかいや 徳 有り。

あんししっから、今帰仁から何処んくい拝どーんや、都屋ぬ 徳 武佐んち、徳 ぬ有んでぃち。うん、今帰仁からん 来 んどー。（あぬー、 骨 ん有いびーたさにやー）うん、 骨 ん有たんでぃしが、私 達がーうれー分からんさー。（見じみそーらん？）、んーんんー見らん。

あんししっから、くぬ戦 争 にうっさぬ都 屋ぬしんか、うぬ洞穴んかい入っち、うりから上から爆 弾ん何ん落とぅすしが、うぬ壕んかいむる入らん、落てぃらん、 一 ちん落てぃらん。あんし、都 屋ぬしんかー終 戦 後なてぃからいっぺー其処信じてぃ、助かてぃ。

【共通語訳】

都屋徳武佐はね。今帰仁から戦に追われた今帰仁親方の一族がここに逃れてきたらしい。そして、その洞穴に隠れて命を凌いだそうだ。

それで、「もう命が助かった、ここは徳があるから都屋徳武佐と呼ぶことにしよう」と、名が付いたんだって。いつまでも徳がありますようにということでね。

それからは、今帰仁など他所からも、都屋徳武佐を拝みに来るよ、徳があるということでね。うん、今帰仁からも拝みに来るよ。（あのう、骨もあったでしょうね）遺骨もあったそうだが、私らはそのことは分からないな。（見たことはない？）、いや見なかった。

去る大戦には、都屋の多くの人たちがその洞穴に避難した。上空からは爆弾も落とされたが、そこには一個も落ちなかった。それで、都屋の人たちは、戦後もなお一層、都屋徳武佐を崇拝しているんだよ、命が助かったということでね。